琉游舎
Ryu Yu Sha
Place to pray, play and progress

アトリエ琉游舎だより　49号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/
琉游舎for healing https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3
2019年3月27日発行

おかげさまで49号となりました

・琉游舎だよりが第49号を迎えました。皆さんありがとうございます。2週間に１回のペースで発行してきましたので、2年弱続いたことになります。21号に続いて49号の一区切りがついたのも、私の日々の行いの歩みを皆さんに読んで頂いたおかげです。
・４と９、７×７＝４９は３×７＝２１と同様、琉游舎にはとてもなじみある数字です。
・皆さんよくご存じのように人が亡くなられたあと７週後の法事を四十九日法要といいます。７日毎に供養をした７回目つまり７日×７回＝四十九日。七七日忌ともいいます。
・四苦という言葉があります。人間の根源的な「苦」を「生老病死」の四つの「苦」に分類したものです。お釈迦様はこの「苦」は欲望と怒りと無知の三毒がもたらすものだと悟り、それを滅することが彼岸への道、安らぎのところだとおっしゃっています。
・４と９は死と苦に通じ、日本人には忌み嫌われる数字のようですが、琉游舎では４は「志」や「支」「始」「思」に、９は「口」や「供」「久」「功」に通じています。
・「♬人生楽ありゃ苦もあるさ」「生死一如」。苦を自覚しなければ本当の「楽」はない、人は死すべき者と知るからこそ「生」を心ゆくまで謳歌する。仏教は「苦」や「死」を避けられないこととして虚無的になり嘆き悲しむのではなく、そこからどうすれば豊かに安らかに楽しく毎日を過ごすことができるかを、私達に教えてくれます。
・４は四つ葉のクローバー、９はベートーベンの第９「歓喜の合唱」、４９は米国ではゴールドラッシュの年（1849年）を表す幸運の数字。琉游舎もこの４と９と４９にあやかって、数字遊びではない真の幸福と喜びと幸運を皆さんにお届けできればと思います。

写経会
4月7日(日)
13時半から

読書会
4月9日・23日(火)
13時半から

詩話会
4月13日(土)
13時半から

映画会
毎週木曜日
13時半から

3月26日～29日
休舎します

3月28日（木）の映画会はお休みします。

4/4	13時半	大いなる幻影（106分）	ジャン・ルノワール監督、ジャンギャバン。第一次世界大戦中捕虜収容所で出合った、フランス
木			軍の貴族出身の大尉と、機械工の中尉との脱獄とその後の物語。
4/11	13時半	オズの魔法使い（102分）	ジュディーガーランド主演。竜巻に巻き上げられたドロシーがたどり着いた夢の国オズ。
木			ライオンと、ブリキの人形と、かかしと供にドロシーの冒険の旅が始まる。
4/18	13時半	ゲームの規則（106分）	ジャン・ルノワール監督。狩りに集まった人々のインモラルな男女関係を風刺した
木			フランス上流社会の恋のかけひきとその召使たちの恋のかけひきを描くラブコメディー。
4/25	13時半	我が道を往く（126分）	アカデミー賞作品賞受賞。ニューヨークの古びた協会の副神父として派遣されたマリオは
木			街の人々に笑顔を与え人望を集める。やがて協会は火事に会い消失する。そして、、、、

5月2日（木）の映画会はお休みします

狂言綺語…如蓮華在水

琉游舎
Ryu Yu Sha
Place to pray, play and progress

水が温んできました。コリーナの池の水は３月に入ってから日中の温かさで水温が上がってきたのでしょう、朝の冷え込みがマイナス5度くらいになっても、もう凍ることはありません。夏には一面にその池を覆っていた睡蓮は寒い冬を氷の下でいのちを永らえていたのでしょうが、まだ３月末になっても茶色に枯れたままで、緑の芽を伸ばすことはありません。しかし眠っていたはずの池の鯉がいつの間にか活発に動き始めました。やがては山に最近住み着いた大ぶりの川鵜が、獲物を求めて池の面を伺う光景を目にするようになるでしょう。そうなればもう春の盛り、気がつくと睡蓮の花が池一面を覆いはじめ新緑の季節となります。この池はふもとの田圃に水を供給する溜め池の役割を果しているようで、調整池と味気ない名前で呼ばれているだけですが、私にとっては自然のいのちの理と流れを教えてくれる安らぎの場所のひとつです。

睡蓮と蓮は植物学的には全く違う種類のようです。睡蓮は水面に花が咲き葉に撥水性がなくスイレン目スイレン科に分類されます。蓮は反対に水面より上で花が咲き葉に撥水性がありヤマモガシ目ハス科に分類されます。蓮根ができるのは蓮の方。ただ英語では睡蓮も蓮もロータスと言うようですし、仏教でもどうやらその区別はしていないようなので、私はコリーナの調整池を密かに蓮華池と呼んでいます。

蓮華は仏教では非常に重要な植物です。お釈迦様や菩薩の像が坐っているところは蓮華座。日本でおそらく一番読まれ文学や芸術にも大きな影響を与えた法華経は「妙法蓮華経」が正式名称です。サンスクリット語の原題は「サッダルマ・プンダリーカ・スートラ」直訳すると「正しい教えである白い蓮の花の経典」となります。つまり蓮華は正しい教えの喩えとして用いられているのです。蓮は泥の中にあっても汚れることなく美しい花を咲かせます。泥から生じて泥に染まらず、水面にひろがり泥をはじいて咲く気高い花の姿が、俗世間の欲にまみれず清らかに生きる象徴のように捉えられているのです。法華経の一節に「不染世間法如蓮華在水」（世間の法に染まざること、蓮華の水にあるが如し）注１とあります。私達の生活の場であるこの世間で、その汚れに染まらず蓮華のごとく生きることがお釈迦様の正しい教えそのものなのです。

仏教はこの「如蓮華在水」と言うことをちゃんと説明してこなかったために、ずっと教えの神髄が正しく伝わらずに今日まで来てしまったようです。というよりは仏教教団がその組織を経済的に維持をしていくために意図的に私達をミスリードしてきた結果なのかもしれません。「地獄・極楽」とよく言いますが、それはこの私達が生きている世間以外の何処にも存在しません。世間の法（関係）にどっぷりとつかり欲と欲がぶつかる毎日にもがき苦しめばそこは地獄、泥の中にあってもそこに染まらず正しい教えを守って毎日を心安らかに送ることができればそこは極楽。地獄も極楽も私自身の心の中以外の何処にも存在しません。でも自分の心中ほど頼りにならないものはないでしょう。正しい教えに対する私達の無知や迷いにつけ込んで、この世間以外の場所が恰も存在するかのように設定し、その口利き、代理人の役を演じてきた一部の仏教関係者が確かに昔から今に至るまで存在することは事実です。僧侶はお釈迦様の教えを導く導師のはず。ところがいつの間にか地獄極楽のエージェントになり果ててしまっていたのです。誤解を恐れずに言えば「地獄の沙汰も金次第」は地獄にいる閻魔大王ではなく世間に溢れるエージェントたちを指す言葉です。

世間の法の中で地獄と極楽を行きつ戻りつしながらそれでも何とか世間の泥に染まらないように悪戦苦闘する姿が「如蓮華在水」ということです。仏教の教えはこの私たちが生きている世間以外のどこにも適用することはできないはずなのですが、なぜこの世間以外に「浄土」や「後世善処」などと別の世界を設定する必要があるのでしょう。親鸞や日蓮などの祖師たちは、自分自身の無明の闇を凝視する中、その煩悩からはどうやっても逃れられない絶望の中に指す一条の教えの光を見出した人たちです。それはその人だけにしか得られない信仰体験でしょうが、なんとかその歓喜の光を皆にも味わってもらいたいと考え、祖師独自の方法によって伝えていこうと布教してきました。その過程で「浄土」や「後世」という「方便（真実の教えに導くために仮に設けた教え）」が必要だったのです。祖師たちの言葉の断片を切り取って「これが真の教えだ」ということは教えの牽強付会です。その方便の数々を包む根本の思想を掴まなければ私たちは祖師たちに触れることもできないでしょう。ましてや祖師たちの教えを通してお釈迦様に触れることなど到底できない相談です。親鸞聖人の他力本願念仏信仰の根本は絶望の暗闇の中に「生きる喜びの光」を見出したこと。日蓮聖人は題目を唱え現世安穏の実践の中で永遠のいのちに触れ「生の肯定の喜び」に出会ったこと。彼らの信仰の根本は、等しく、現世の生きる喜びにあることは、私には疑いようのない宗教的事実です。生きているこの瞬間が生きる喜びにあふれた瞬間と歓喜すること。それ以外に信仰の喜びはないと私は考えます。ですからこの日常の所以外には、地獄も極楽も浄土も後世も彼岸も涅槃もなにもかも存在できないのです。

コリーナの蓮華池の底は泥のため一見濁っているように見えますが、鯉の泳ぐ姿が水面から3メートルほど上の道路からもきれいに観ることが出来ます。風のない日などは鏡のような水面を見ていると、きれいな水を通して池の底の泥の中に吸い込まれるような錯覚に襲われてしまいます。その先にどんな世界があるのか、大蛇の住処か、竜宮城へ繋がる道か、楽しい妄想のひととき。この場所この時間もまた私にとっての安らぎの処の一つです。

それではまた次号でお会いしましょう（出琉）

琉游舎：戸井　出琉・恭子
お問い合わせ先：0287-53-7848　08033508152
矢板市大槻2319－17コリーナ矢板Ｃ－８５０

注１：法華経従地涌出品第１５